

能登半島地震からの教訓 ー輪島高校での10か月ー

震災で我が家を失った私は、翌日から校長室に泊まり込むことにしました。
電気も水道もない真っ暗な校舎でひとり毛布にくるまっていても
眠れなくて何かやっていないと気が狂いそうになりました。
手にしたiPadで思いを書き綴りました。校長ブログ「おこらいえ」。
途中どうしても嫌になってもう止めようかと思った二日間を除いて
二日坊主（三日坊主よりたちが悪い）の私にしては珍しく
今日まで毎日更新しています。



1月2日（火）悲しいほどお天気

「立ち上がり！輪高」

震災後初めて学校に入りました
あまりの酷さに絶句

私は教師として真の教育とは何か
常に問い続けて来ました

ある時ある先生の教育実践に出会い
その時から
これが真の教育であり
教育の原点だと思ふようになりました
それ以来そうありたいと思ひ
これまでの教員生活を送ってきました

これは心の中に思い続けるものであり
決して退職するまで
こんなことが実際に
起こることなどないだろうと
思っていたものなのですが
まさか本当にその日が来ようとは

その先生の教育実践とは

戦後の焼け野原で子供達を集め
何にもない広場で
教科書もノートも使わずに
どんな時も学びを止めてはならない
そう語りかけ
子供たちに希望を与え続けた先生です

教師がチョーク一本で
語りながら板書し続けて
生徒はひたすらそれを書き写す
そんな授業スタイルを
「チョーク&トーク」といって
昭和を代表する時代遅れな教育と
最近では揶揄されることも多いですが

ICT 機器など最新の教育機器が
使えないような状況になったとしても
チョーク一本でどれだけ子供達を惹きつけ
希望を持たせる授業ができるのか
これこそが
「チョーク&トーク」の真髄だと思います
このことを常に考えて
授業力を磨き続けてきたつもりです

輪島市は今ウクライナの
戦場の様相を呈しています



でもそんな中でも
決して学ぶことを止めてはならない
それを生徒たちに伝えたい
強く強く心の底からそう思います

1月3日（水）何事もなかったかのような

「奇跡の一軒家」

焼け野原となった街を見に行きました
あちこちでまだ煙がくすぶっています



一面燃え尽くされたすみっこに
我が家だけボツンと残っていました

東日本大震災の時の
「奇跡の一本松」を思い出します

でも焼け残ったのは
実は奇跡でもなんでもないのです

こんな大火災になった時は
街区のはじっこの家
とにかく水をかけて
なんとかそこで延焼を
食い止めるのだそうです
確かに道を隔てた先には
炎が燃え広がった跡が全くなく…

我が家は水浸しになりながら
なんとかここで炎を食い止めようと
街を全焼から守ろうと
必死で持ちこたえていました



それを見ると自分もしっかりしないと
生徒のために何が出来るか考えないと
力が湧いてきます

家の中に入ってみました
水をたっぷり吸った床を踏むとふんにやり

到底住むことはできないので
いすれ取り壊されます
「本当によくやった」
褒めてやりたいです

新婚旅行の思い出の
コアラのぬいぐるみだけ持ち出しました

1月4日（木）まるでプラネタリウム

「星がきれいですね」

輪島高校を避難所として開設するため
教頭先生と2日から泊まり込みで
準備を進めています

屋間には何人も先生やOB、OGが
手伝いをして来ています
いろんな方に助けていただいています

日本各地の自衛隊が
続々グラウンドに集まって来ます

背景の傾いたビルが
震災の激しさを物語っています

なんでも終戦の翌日には
もう郵便が届いていたそうで
日本って国は本当に素晴らしい

オンラインで生徒の安否を確認中です
電波事情が悪く回答は3分の1のみ
そこで直接避難所を回ってみました
すると前期の生徒会会長が
ほとんどの生徒の安否を
把握していたのです
その実行力と生きる力に感心しました

彼は昨年、本校の百周年記念式典で
生徒代表挨拶を務めた生徒です
あまりに立派な挨拶に感動した校長
「虎の涙」という限定販売の焼酎を
「二十歳になったら呑めよ」と
阪神ファンの彼に送ったのでした
その焼酎震災で割れていないといいな

屋になると「先生食べてー」と
生徒が食パンを持って来てくれました
スーパーで配ってくれるものを集めて
いろんな人に配っているのだとか
自分たちだってお腹すいてるくせに

ありがたくいただきました
ほとんど飲まず食わずだったので
心にしみること
ハクにももらったおむすびを頼張る
千尋の気持ちかわかるような

陽が沈むとあたりは真っ暗です
余震が起こるたびに怖くなるけど
そのかわり星がとても綺麗です

「星が綺麗ですね」と語りかけたとき
最も悲しくなる返事は
「星は綺麗ですね」
最もときめくのは
「今なら手が届くかもしれませんよ」
これ何のオマージュかわかりますか？

国語が好きならわかりますね

大好きな国語の授業を受けれる日が
一日でも早く訪れますように

1月5日（金）広く日差しが届く

「今日も生きている」

ついに電気が灯りました
北陸電力、電気保安協会、電気商会さん
順番に直してようやく本日復旧
本当にたくさんの人のおかげで
普通の生活が守られているんだと
改めて感激です

電気ってこんなに明るかったんだ
まったりしている
突然生物実験室からガス検知器の音が…
駆けつけてみると
異臭とともに目に飛び込んできたのは
倒壊した棚と散乱した生物標本
保存びんが割れてホルマリンが床一面に…
復旧した検知器が一斉に反応したのです

ホルマリンはホルムアルデヒドの水溶液
シックハウス症候群の原因となる
発がん性のある危険物質
ホルムアルデヒドはメチルアルコールから
水素が奪われてできます
アルコールから
水素（ヒドロゲン）が出ていくからアルデヒド

ともあれ、除染作業の開始です
水で薄めながら雑巾に吸い取らせませ
手につくと手がホルマリン標本になるので
慎重に慎重に
ガラス瓶の破片を除けると
大の苦手のヒキガエル！
突然蘇ったらどうしようと
恐る恐るつまみ出します
次亜塩素酸で消毒して完了
検知器の警報音も鳴り止め一安心

午後3時過ぎから
避難民の受け入れが始まります
避難生活の疲れからかなりイライラ
受付係はお医者さんと看護師さん
本来業務外に駆り出されているのに
苦情対応までしなければならぬなんて
なんだか教員の働き方みたい
協力してなんとかイライラをおさめます

なんやかんやで受け入れ完了が午前0時
長い一日だったな
毛布にくるまりこのコラムを書きながら

「火事です！」突然火災報知器が…
数日前の恐怖が頭をよぎります
慌てて飛び起き確認すると火元は格技場
駆けつけてみると
みなさん何事もなかったかのよう
それでも報知器が鳴り止みません
消防署に通報して来て見てもらいました
原因はジェットヒーターの焚きすぎ
外気温との差によって作動する報知器が
どうやら誤作動したようです
一酸化炭素中毒も心配です
換気もずませて午前3時

チャー 今度は仮設トイレで悲鳴が…
駆けつけてみると
便器の外にでっかい「う〇こ」
ホルマリンの次は「う〇こ」の除染です
除染完了午前4時

少しでも休もうと横になっても眠れません
コラムでも書いていれば
そのうち眠くなるかなと思いつ
このコラムを書いていると
空が明るくなってきました
おはようございます
避難生活6日目の朝です

1月7日（日）今夜半より大雪警報

「自分は誰のために何ができるのか」

生徒の皆さん
避難所の様子をしっかりと観察してください
誰がどのように動いているのか？
そしてしっかり考えてください
自分は誰かのために何ができるのか？
机の上で学ぶことだけが勉強ではない
ポロポロになった自分の生まれた街から
決して目を逸らさないでください

大谷翔平選手が今回の震災に対して
100万ドルの寄付をしてくださりました
大谷選手は16歳の時に
東日本大震災で被災しています
当時一緒にプレイしていたチームメイトの
中には大切な家族を失った方もいます

昨年3月11日にWBCで
チェコ戦に登板した佐々木朗希選手は
小3の時に同じく東日本大震災で
大切なお父さま、祖父母を亡くしています
「つらさや悲しみは消えないけれど
たくさんの人に支えられて
野球に打ち込めた」と語っています

羽生結弦選手も
16歳の時に東日本大震災を経験し
避難所生活を余儀なくされています
自叙伝『蒼い炎』の中で語っています
「今でも目を閉じると
たくさんのことを思い出す」

つらい思いをしたからこそ
そしてそれを乗り越えたからこそ
世界に羽ばたく強さと
そして優しさを兼ね備えた
素晴らしい3人のトップアスリートです

こんなに素晴らしい先輩たちがいる
君たちにもきっとできる

これを書いている今、夜中の10時
不気味な余震が何度となく襲ってきます
自宅にいるのが怖くなって
新たに避難所に来るお年寄りを迎えます

遠くで叫び声が聞こえます
幻聴か？でも確かに…
亡くなった方の心の叫びか？怖くなります
おそらくこの時間になっても
捜索を続けている方の声なのでしょう

今朝、124時間ぶりに救出された方の
新聞記事がありました
普通72時間が限界と言われているのに

一人でも多くの方の命を助け出そうと
諦めずに頑張っている捜索隊の方々に
感謝の思いいっぱいです

2月18日（日）

しめやかに

今日は四十九日

痛かったでしょう
重かったでしょう
熱かったでしょう
凍えたでしょう
怖かったでしょう

どうか安らかに

心からご冥福をお祈りします

3月12日（火）ときおりのぞく青空

「天声人語」に想う

11日付の朝日新聞「天声人語」です
「女川町を見下ろす丘の上で、
これを書いています。
いかがお過ごしですか？
あの日と同じように、
さっきまで小雪が風に舞っていました。
あなたたちを忘れぬようにという
空からのメッセージでしょう。」

あの時亡くなった方が
命と引き換えに残してくださった
教訓のおかげで
あの時生き残った方が差し伸べてくださる
温かい手のおかげで
今私たちはこうして生きています

今回最も大きな被害のあった場所のひとつ
珠洲市の高屋という地区に
かつて原発を建設する計画がありました
私が教員になりましたの頃
40年ほど昔の話です

賛成派と反対派が市を二分して争いました
立場が異なれば
親子や兄弟であっても口すらきかない
殺伐とした空気が街中を覆っていました

選挙が近くなると
ほとんど車の通らない山奥の道沿いに
真夜中に点々と車が停まっているのです
夜中にこっそり往来する車を見張って
寝返るものがないかお互いに見張る
不気味な光景でした

教員になりたての頃は
「珠洲の子はなんて物言わぬ子だろう」
と正直感じていたのですが
おそらく大人たちのそういった雰囲気感
を感じ取っていたのだと思います

珠洲に限らず
石川県の人は総じて自己表現が苦手
よく言われませ
百万石の領地を抱える前田の殿様は
徳川家に目をつけられぬよう
鼻毛を伸ばすなどわざと馬鹿なフリをして
領民をお守りになったとも言われます
目立つことが嫌いで控えめな
石川県民の気質はそういったところから
引き継がれてきたものかもしれません

今回も支援に来てくださっている
大阪からの支援の方に言われました
「よう黙ってんな大阪やったら暴れてるで」

言うべきことを言う
ということをやっていかねば

結局珠洲の原発は反対派が勝利しました
もしあの時原発が建っていたら・・・

物言わぬ当時の珠洲の人々が
心の声をあげて
今の我々を
放射能から守ってくださいました

「天声人語」は続けます

「なぜでしょう。あなたたちの
命の代わりに学んだはずのことが
なぜ
こんなふうになってしまうのでしょうか。
女川原発は秋にも再稼働するそうです。」